

世界のコインを楽しむ

中型銀貨 (4) ドイツ 1

第99回

平石 国雄

ドイツではヴァイマル（ワイマル）共和政期の一九二四―二五年に三マルク中型銀貨（写真①、一九二四年A）が作られている。銀品位五〇〇で一五・〇〇gあり、直径三〇mmである。表面に翼を大きく広げたドイツを象徴する鷲を描き、裏面中央には額面がドイツ語で大きく描かれている。ミントは、ベルリン（ミントマークA）、ミュンヘン（D）、ムルデンフツデン（E）、シュトゥットガルト（F）、カールスルーエ（G）、ハンブルク（J）の六種である。

そして第三帝国下では、一九三三年にマルチン・ルターを描いた五ライヒス・マルク記念銀貨を筆頭に、一九三五年までに同様の記念銀貨が三種類作られる。一九三四年に、ナチス政権一周年記念貨と同様の五ライヒス・マルク通常貨（写真②、一九三四年A）が作られる。銀品位九〇〇で一三・八八gあり、直径二九mmである。表面のドイツの鷲は同様であるが、裏面にはポツダムにあるガリソン教会が描かれており、一九三五年まで上記の六ミントで作られている。

一九三五年の途中からは、裏面がヒンデンブルク大統領頭像を描いた五ライヒス・マルク貨（写真③、一九三六年D）に変わる。さらに一九三七年には、表面のドイツの鷲がナチス政権のものに変わった五ライヒス・マルク貨（写真④、一九三九年D）が作られる。このコインは一九三九年まですでに記載している六ミントで作られ、さらに一九三九年のみウィーン（B）ミントが加わっている。

ヒンデンブルク大統領頭像タイプのミントマークは、裏面右下に記されている。すでにミュンヘン・ミントのコインは写真掲載しているので、他の五ミントの部分拡大写真、ベルリン（写真⑤、一九三六年A）、ムルデンフツデン（写真⑥、一九三五年E）、シュトゥットガルト（写真⑦、一九三六年F）、カールスルーエ（写真⑧、一九三五年G）、ハンブルク（写真⑨、一九三七年J）を掲載する。なおウィーン・ミントは入手できなかったため、一九三八年も作っている二ライヒス・マルクの写真（写真⑩、一九三八年B）を掲載する。取り上げた第三帝国下の五ライヒス・マルク貨には、同じデザインの新ライヒス・マルク貨（直径二五mm）が作られており、こちらの方は入手が容易である。



写真④ 5 ライヒス・マルク銀貨 1939 年 D



写真③ 5 ライヒス・マルク銀貨 1936 年 D



写真① 3 マルク銀貨 1924 年 A



写真② 5 ライヒス・マルク銀貨 1934 年 A



写真⑧ 1935 年 G
(カールスルーエ)



写真⑤ 1936 年 A
(ベルリン)



写真⑨ 1937 年 J
(ハンブルク)



写真⑥ 1935 年 E
(ムルデンフツデン)



写真⑩ 1938 年 B
(ウィーン)



写真⑦ 1936 年 F
(シュトゥットガルト)



写真② 5 ライヒス・マルク銀貨 1934 年 A



写真③ 5 ライヒス・マルク銀貨 1936 年 D



写真② 5 ライヒス・マルク銀貨 1934 年 A



写真③ 5 ライヒス・マルク銀貨 1936 年 D